

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)フレンズ閣僚級会合
林外務大臣スピーチ(日本語仮訳)

ご出席の皆様、お集りいただき感謝。

今回初めて対面でUHCフレンズ閣僚級会合を共催できることを大変嬉しく思う。

新型コロナの感染拡大により、世界の至る所で医療への公平なアクセスの脆弱性が露呈し、我々は「誰の健康も取り残さない」ためのユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC)の達成に向けた取組を強化・加速化する重要性を再認識した。

しかし、現状では、世界の半分の人が新型コロナ対策を含む基礎的保健医療サービスを受けられていないと言われており、人間の安全保障も脅かされ、国家の経済的・社会的発展が阻害されている。

今回の新型コロナ危機を通じて、世界は保健システムへの投資が強靱な経済・社会の基盤を強化することを実感した。

新型コロナで得られたモメンタムを活用し、UHCの達成に向けた取組を維持・強化する必要がある。

この点、日本は、世界の新型コロナ対策への貢献においても、UHCの達成を旗印として、三つの柱、すなわち、①現下の新型コロナ危機を克服しつつ、②将来の健康危機の予防・備え・対応に資する保健システムを強化し、③より良い健康安全保障を構築するために伝統的な感染症を含む幅広い保健課題に対処するという観点から、取組を進めてきた。

新型コロナ対策では、約50億ドル規模で、低中所得国における取組を後押ししてきた。

中でも、COVAXへの最大15億ドルの財政的支援を含め、新型コロナの収束への鍵となるワクチンへの公平なアクセスの確保に向けてリーダーシップを発揮してきた。

また、日本は、三大感染症対策のみならず、UHC達成に資する保健システム強化に貢献するため、グローバルファンドに対して、今後3年間で、最大10.8億ドルのプレッジを表明した。

将来の健康危機の予防・備え・対応(PPR)強化のためには、UHCの達成に向けた平素からの保健システムの強化が重要であり、日本は取り組んできた。

例えば、ガーナの野口研においては、日本からの長年の資金面、技術面の貢献により強化された人材や検査システムによりガーナ国内のみならず周辺9か国のPCR検査を担うことができた。

ベトナムでは、日本の長年の協力による基幹病院や医療ネットワークが、新型コロナ対策の基盤となった。

また、ASEAN感染症対策センターについても、立ち上げ当初から財政面や技術研修の実施を通じて、本格的な稼働に向けて支援してきており、今後も専門家の派遣などを通じて貢献していく。

来年、日本はG7広島サミットを開催する。

新型コロナを経験した今こそ、その教訓に学び、より良いグローバルヘルス・アーキテクチャーを構築し、今一度、UHCの達成に向けて、世界のモメンタムを強化する。

このUHCフレンズは、日本をはじめ数か国の有志国で始まり、新型コロナ発生直前の3年前、ここニューヨークの国連総会UHCハイレベル会合で全ての加盟国のリーダーをUHC達成の合意に導いた。

1年後、ここ国連総会で再びUHCやPPRを議論するために全加盟国の首脳がその英知を結集する。

日本は本年5月に決定した新しいグローバルヘルス戦略に基づき、G7での議論を主導し、ポスト・コロナの時代に求められるUHCの推進に関する議論をはじめ、国際的な取組を引き続き主導していく決意である。

日本は、UHCフレンズと緊密に協働することを楽しみにしている。